



宝グループ 環境活動REPORT 2023



◀ 統合報告書
(宝グループレポート)は
こちらをご覧ください。

宝ホールディングス株式会社
京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20
TEL: 075-241-5130
(2023年10月)

03 1. 環境方針

2. 環境活動

04 ● 気候変動

09 ● 水資源 ● 廃棄物削減

10 ● 4Rの推進

12 ● フードロス削減

13 ● タカラ・ハーモニストファンド

15 ● 田んぼの学校

16 ● エコの学校

17 3. 環境データ

19 4. 宝の環境活動のあゆみ

1. 環境方針

宝グループ環境方針

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

- 1 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
- 2 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
 - ① 環境汚染の予防に努めます。
 - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
 - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
 - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
 - ⑤ 容器包装の3Rへの対応など、環境に配慮した商品開発に努めます。
- 3 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- 4 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

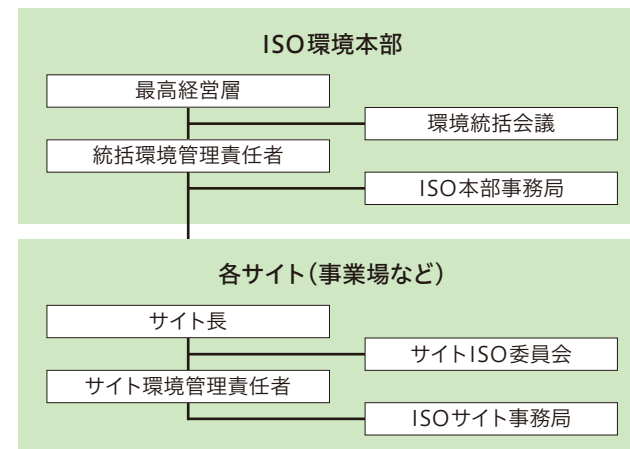
宝グループ環境マネジメントシステム

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、本社、および宝ホールディングス、宝酒造インターナショナルの本社で、ISO14001の認証を取得しています。

ISO環境本部を中心に、経営と直結した目標に向かって活動しています。

● 宝グループ環境マネジメント体制



環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2023年3月期における環境法令違反による罰金および処罰事項はありませんでした。

主要な環境関連法規

- 公害関係法規（水質汚濁防止法など）
- 廃棄物処理関係法規（廃棄物処理法など）
- 化学物質管理関係法規（PRTR法、毒物劇物取締法など）
- リサイクル関連法規（容器包装リサイクル法など）
- 省資源関連法規（省エネ法など）
- 防災・危険物関係法規（消防法など） など

2. 環境活動

● 気候変動

CO₂排出量削減ロードマップの策定

宝グループでは、サステナビリティ・ビジョンにおいて以下の目標を掲げ、CO₂排出量削減に取り組んでいます。

2030 年度	宝酒造	生産拠点におけるCO ₂ 排出量を 46%削減(2018年度比)
	宝酒造インターナショナル グループ	生産拠点におけるCO ₂ 排出量を 46%削減(2018年度比)
	タカラバイオグループ	CO ₂ 排出原単位(売上高当たりのCO ₂ 排出量)を 50%削減(2018年度比)
2050 年度	グループ全体	CO ₂ 排出量を実質ゼロ

2022年6月にはCO₂排出量削減ロードマップを策定し、排出量削減施策を計画しました。具体的には、ガスボイラーの活用や、太陽光パネルの採用、CO₂フリー電力の使用などです。なお、このロードマップは環境変化への対応や技術開発など、常に最適な取り組みを行うことを目的に随時更新をしております。

宝ホールディングス歴史記念館のCO₂フリーエネルギー化



2023年4月1日より、宝ホールディングス歴史記念館は脱炭素化実現のため、使用電力を再生可能エネルギー由来の電力に変更しました。

歴史記念館の設備は、オール電化設定のため、これにより使用するエネルギーがCO₂フリーとなりました。

トマーチン社 「サステナブル・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」受賞

英国のトマーチン社がウイスキーマガジン社主催のIcons of Whisky Awards 2023において、「サステナブル・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。

トマーチン社はスコッチ・ウイスキー協会(SWA)のメンバーとともに、2040年までに事業活動におけるCO₂も含めた全ての温室効果ガスの排出を完全にゼロにするという目標(Net Zero Emissions)達成に向けて取り組んでおり、その取り組みが評価されたものです。



気候変動問題への対応

生産工程でのCO₂排出量削減

宝グループの2022年度の生産工程におけるCO₂総排出量は104.3千t-CO₂となり、前期比では7.5%の減少となりました。これは、グループ全体のCO₂排出量の8割以上を占める宝酒造の生産工程で、高効率ボイラーへの更新、重油ボイラーのガス化、殺菌温水の廃熱再利用などに取り組んだ効果によりCO₂排出量が84.9千t-CO₂となり、前期比9.3%の減少となったためです。

このほか、2022年度は宝酒造インターナショナルグループではトマーチン社のバイオマスボイラーの活用等により24.5%減少、タカラバイオグループでは遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟の本格稼働が影響し9.7%増加となりました。

- 生産工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例**
- 高効率ガスボイラー、重油ボイラーのガス化等の省エネ設備の導入
 - 殺菌温水の廃熱再利用
 - コージェネレーション(熱電供給)システムの利用促進

物流工程でのCO₂排出量削減

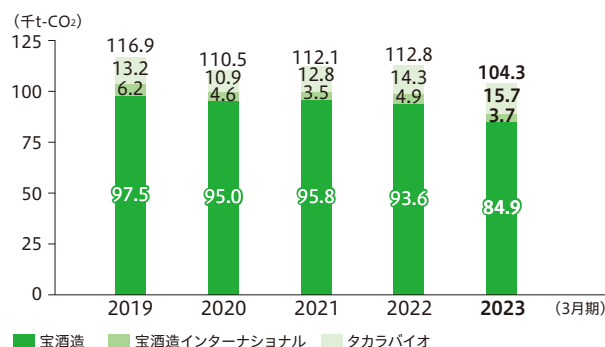
宝酒造では、物流の効率化や省エネ運転、ヒートポンプの導入、モーダルシフトの推進、トラック輸送における製品積載率の向上などにより、輸送時のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。2022年度の物流工程におけるCO₂排出量は14.4千t-CO₂、前期比7.7%の削減となりました。



専用タンカーでのアルコール輸送

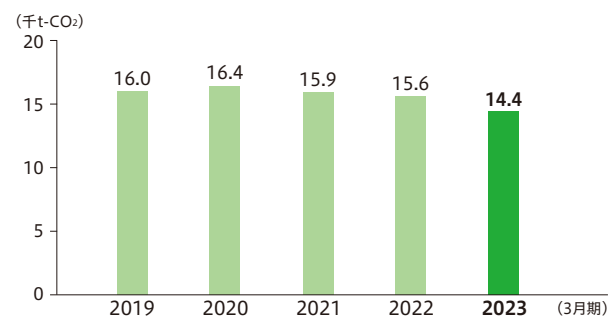
- 物流工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例**
- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
 - 消費地生産による東西拠点間の転送の削減
 - 物流子会社による高積載トラックの開発

宝グループ生産工程のCO₂排出量の推移



<集計範囲>
 宝酒造、
 Takara Sake USA Inc.
 宝酒造食品有限公司、
 The Tomatin Distillery Co.Ltd.、
 タカラバイオ、
 宝生物工程(大連)有限公司、
 DSS Takara Bio Pvt. Ltd.、
 Takara Bio USA, Inc.
 ※2019年2月まで瑞穂農林、
 きのこセンター金武含む

宝酒造の物流工程のCO₂排出量の推移



TCFDフレームワークに基づく開示

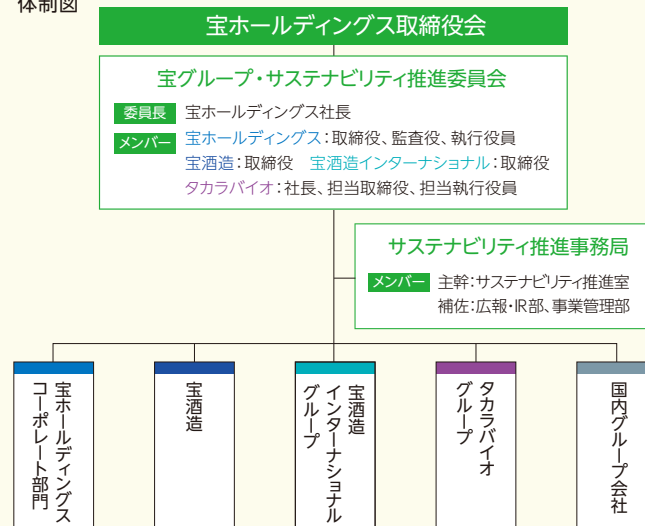
宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつと位置づけ、積極的取り組みを進めています。気候変動が事業の持続性に影響を与える重要な問題であると認識し、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同するとともに、TCFDコンソーシアムに入会しています。TCFDフレームワークに沿って気候変動に関するリスクと機会の評価と対応を進め、関連する情報の開示を行いステークホルダーの皆様と対話を続けていきます。

ガバナンス

宝グループでは、取締役会の監督のもと、宝ホールディングス代表取締役社長を委員長とした「宝グループ・サステナビリティ推進委員会」を設置し、気候変動が事業に与えるリスク・機会の評価や戦略の策定、目標などについて審議を進めています。また、宝グループ・サステナビリティ推進委員会の下部組織として気候変動問題に対応する「サステナビリティ推進事務局」を設置しています。サステナビリティ推進事務局は、宝グループ・サステナビリティ推進委員会の決定に基づいて、グループ各社の具体的活動の設定、実行を推進します。

これらの気候変動問題を含むサステナビリティの取り組みは、宝グループ・サステナビリティ推進委員会が取締役会に報告します。

体制図



リスク管理

宝グループでは、宝酒造株式会社と宝酒造インターナショナル株式会社の海外酒類事業(Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd)を対象に、リスクと機会を特定しました。特定のプロセスとしては、移行リスクや物理的リスクについて、専門家の意見や公表されているレポートなどを参考に、想定されるリスク・機会を抽出し、影響を受ける可能性や大きさを考慮し、短期・中期・長期の時間軸で影響が大きいと想定されるリスク・機会を選定しました。特定されたリスク・機会の内容とその対応策は、宝グループ・サステナビリティ推進委員会が取締役会へ報告します。

戦略・シナリオ分析

宝グループでは、2021年度に分析した宝酒造株式会社に加えて、2022年度は宝酒造インターナショナル株式会社の海外酒類事業(Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd)を対象に広げ、気候変動リスク・機会による事業への影響の把握、対応策の検討のためのシナリオ分析を実施しました。

なお、この分析にあたり、物理的リスクではIPCC(気候変動に関する政府間パネル)のAR5によるRCP2.6(2°C未満シナリオ)およびRCP8.5(4°Cシナリオ)、移行リスクではIEA(国際エネルギー機関)のWEOによるAPSシナリオ(2°C未満シナリオ)、NZE2050シナリオ(1.5°Cシナリオ)を参照し、気候変動による影響を分析・検討しました。

➡ 気候変動による事業リスクと機会

移行リスク

気温上昇が2°C未満に抑えられ、カーボンニュートラル達成に向け厳しい環境規制が導入されるなかで、炭素税の導入による容器・包装材の価格高騰や、エネルギーコスト増により事業が影響を受けます。

物理的リスク

気温上昇が4°C程度となり、海面上昇による高潮や洪水の被害は操業に大きな影響を与えます。さらに、気温上昇により、原材料である農作物の収量が大きな影響を受けることがわかりました。

➡ 農作物収穫への影響

機会

省エネ設備の導入等省エネ推進によって操業コストが低減することや、エシカル消費需要やエコ商品需要の高まりは、当社にとって機会になると考えています。

今後は、継続的にリスク・機会の見直しや対策の具体化を進め、中長期の経営戦略に反映させることで戦略のレジリエンス向上に努めます。

気候変動による事業リスクと機会

リスク	内容	時間軸 ^{*1}	影響度 ^{*2}	対策
移行リスク	炭素税によるエネルギーコスト増	中期	1.5°Cシナリオ 2.0°Cシナリオ 中 中	・CO ₂ 排出量削減の取り組み推進、再エネ比率の拡大 ・モーダルシフトの推進(日本国内が対象) ・再生可能エネルギー利用の推進(太陽光パネル設置等) ・社用車のEV化
	容器・包装材のコスト増	中期	中 中	・リサイクル容器や低炭素の代替容器への切り替え ・紙や段ボールの認証取得(FSC、PEFC等) ・軟包材・印刷へのバイオマス原料使用 ・包装材軽量化(壺缶の軽量化・ラベルシール廃止)
物理的リスク	河川氾濫(水害)	長期	4.0°Cシナリオ 大	・日本国内の生産拠点の分散化 ・大規模浸水が想定される拠点の重点調査・対策検討
	沿岸氾濫(水害)	長期		
	農作物収穫への影響 (詳細は下記を参照)		(詳細は右記を参照)	

*1 中期 2030年頃まで 長期 2050年頃まで

*2 財務指標に与える影響度 大 5%以上 中 1~5%

移行リスクは連結営業利益、物理的リスクは連結売上高、連結有形固定資産、連結棚卸資産への影響

機会	内容	対策
機会	省エネ設備への入替によるコストへの影響	・低炭素型設備の導入 (ボイラーを重油から天然ガスへ転換) ・Tomatinにおけるバイオマスボイラーの活用
	省エネ推進によるコスト削減への影響	・操業コストの低減につながる省エネ設備の導入促進 ・排熱の再利用促進の検討(ヒートポンプの活用等)
	エコ商品需要(エシカル消費需要)の増加	・エシカル消費に対応した商品開発 (タカラcanチューハイ「すみか」、寶CRAFT、等) ・環境配慮型商品や認証商品への取り組み

農作物収穫への影響

これまで分析してきた宝酒造株式会社に加えて、宝酒造インターナショナル株式会社の海外酒類事業(Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd)を対象に広げて、原材料使用で高ウエイトを占める4品目について気温上昇による収量への影響を分析しました。

産業革命以前からの世界平均の気温上昇量(°C)と影響変化

品目	主要原産国	2.0°C	4.0°C	対策
サトウキビ(収量)	ブラジル	↑	↑↑	・生産者との協業による安定調達の継続 ・調達リスクを低減するためのサプライヤーの調査・分散化 ・気候変動に対応した原材料の調査・検討
トウモロコシ(収量)	米国	↓	↓↓	
水稻(収量)	日本	→	↓	
水稻(収量)	中国	↑	↑	
水稻(収量)	米国	↑	↑	
大麦(収量)	英国	↑↑	—	

【影響変化】- / +
 30%以上
 15%以上30%未満
 15%未満
 変化なし
 データなし

指標と目標

宝グループは、「宝グループ・サステナビリティ・ビジョン」においてCO₂排出量の削減目標を設定しており、宝酒造、宝酒造インターナショナルグループにおいては生産拠点におけるScope1+2のCO₂排出量の目標を設定しています。

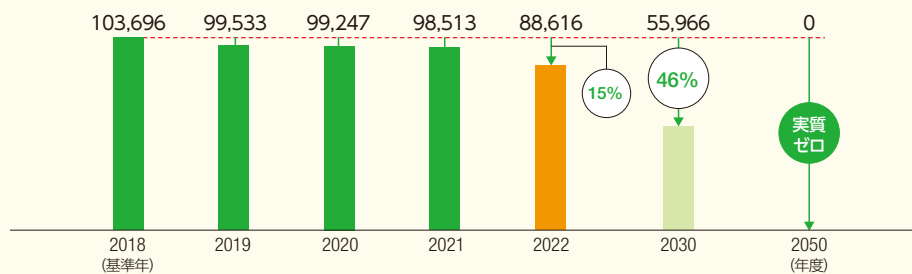
■ 目標と2022年度の進捗状況

達成年度	範囲	指標・目標	2022年度実績
2030年	宝酒造 宝酒造インターナショナルグループ	生産拠点におけるCO ₂ 排出量を2018年度比で46%削減	2018年度比:15%削減 CO ₂ 排出量:88,616(t-CO ₂)
	タカラバイオグループ	CO ₂ 排出原単位(売上高当たりのCO ₂ 排出量)を2018年度比で50%削減	2018年度比:45%削減
	宝酒造(物流部門)	輸送におけるCO ₂ 排出原単位(販売数量当たりのCO ₂ 排出量)を2018年度比で10%削減	2018年度比:9%削減
2050年	グループ全体	CO ₂ 排出量実質ゼロ	—

■ 宝酒造、宝酒造インターナショナルグループのScope 1、Scope 2の合計CO₂排出量

※宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの生産拠点

(t-CO₂)



■ 宝ホールディングス・宝酒造のGHG(温室効果ガス)排出量(2022年度)

宝ホールディングス・宝酒造ではScope1+2+3のGHG(温室効果ガス)排出量の算定を行っております。今後グループでの把握を進めていきます。

単位:t-CO₂e

	2021年度	2022年度
Scope1+Scope2	104,859	90,158
Scope1	84,081	68,999
Scope2	20,778	21,159

カテゴリー	2021年度	2022年度	算定方法
Scope3	823,018	793,949	
カテゴリー1	625,373	605,552	調達した原材料・容器包材を対象に算出
カテゴリー2	6,221	8,864	購入した設備・機器を対象に算出
カテゴリー3	18,680	16,226	燃料・電力の使用量を元に算出
上流			
カテゴリー4	112,830	105,474	調達した原材料・容器包材の物流を対象に算出
カテゴリー5	947	862	廃棄重量物を対象に算出
カテゴリー6	235	230	従業員の出張を対象に算出
カテゴリー7	586	574	従業員の通勤を対象に算出
カテゴリー8	—	—	算定対象外
カテゴリー9	5,300	5,092	出荷物流を対象に算出
カテゴリー10	—	—	算定対象外
カテゴリー11	—	—	算定対象外
下流			
カテゴリー12	52,579	50,813	販売商品の廃棄物を対象に算出
カテゴリー13	267	262	外部への賃貸機器を対象に算出
カテゴリー14	—	—	算定対象外
カテゴリー15	—	—	算定対象外
Scope1+Scope2+Scope3	927,877	884,107	

Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

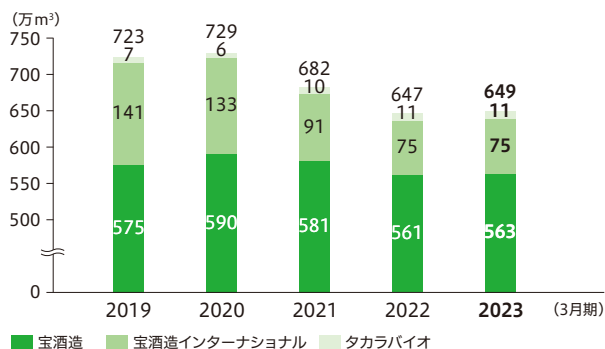
●水資源

持続可能な水資源の利用

生産工程での用水使用量の削減

宝グループの2022年度の生産工程における用水の総使用量は649万m³となり、2022年度から新たに発生した製品製造業務により用水使用量が増加したため、前期比で0.3%の増加となりました。

宝グループの生産工程での用水使用量の推移



<集計範囲>宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、DSS Takara Bio Pvt. Ltd.、Takara Bio USA, Inc.
 ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む

●廃棄物削減

廃棄物排出の抑制

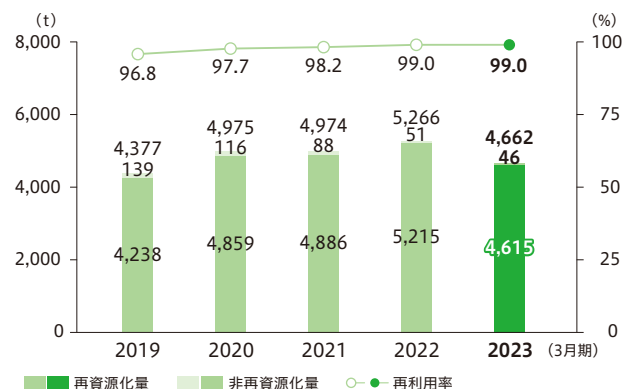
廃棄物削減およびサーキュラーエコノミーの推進

宝酒造の工場では焼酎粕などの副産物や排水処理汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。そのため、焼酎粕などの食品系副産物を飼料化・肥料化するなど有効利用を図ることで、再利用率99%以上を維持するなど、工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

22年度の宝酒造の廃棄物排出量は4,662t、うち再利用率は99.0%となりました。

- 廃棄物削減の取り組み事例**
- 焼酎粕飼料化設備の導入
 - 排水処理汚泥の減容化

宝酒造の廃棄物排出量の推移



●4Rの推進

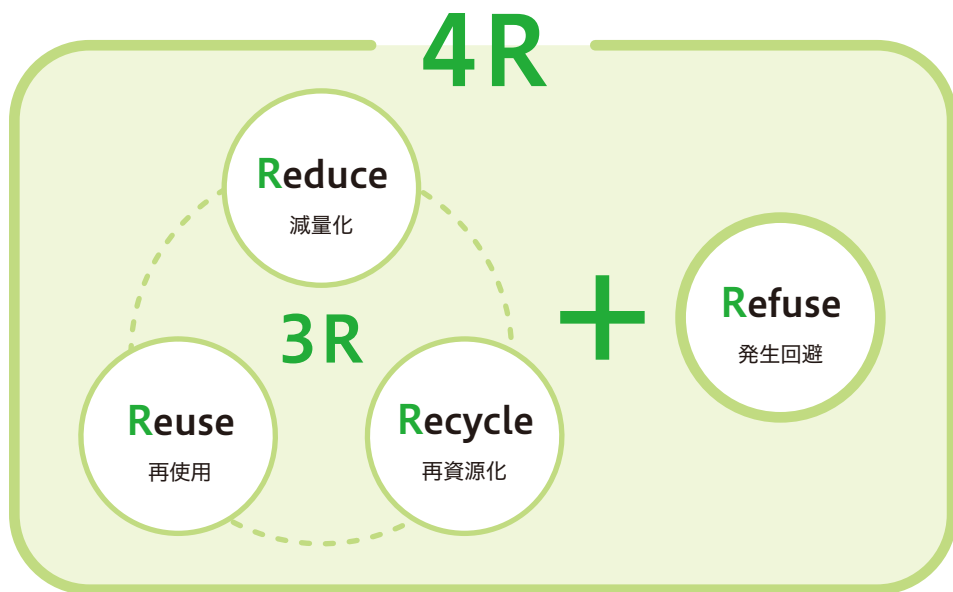
空容器問題への取り組み

空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割(容積比)は、容器包装が占めています。

宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース(Reduce:減量化)、リユース(Reuse:再使用)、リサイクル(Recycle:再資源化)の3Rにリフューズ(Refuse:発生回避)を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



リデュース 容器の軽量化

容器の軽量化は、製造時の資源消費や商品輸送に伴う燃料使用の削減などの環境負荷削減効果が期待できます。



リユース リターナブル容器の使用

一升びんをはじめとするリターナブル容器(繰り返し使用できる容器)の使用は、資源の節約や廃棄物の削減に有効な手段です。

宝酒造はこの一升びんの使用量が国内トップクラスですが、残念ながら消費スタイルの変化などの理由から清酒や焼酎、本みりんなどで使用されている一升びんは減少の一途をたどっています。そこで、宝酒造では、1994年から主力商品の宝焼酎「純」、宝焼酎「純」レジェンド720mlびんをリターナブルびんに変更しました。2023年3月末までに、720mlリターナブルびんの再使用本数は9,669万本に達しています。



リサイクル リサイクルしやすい容器包装の採用

宝酒造は、1998年にリサイクルの効率化のために策定された「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に酒類業界で初めて完全準拠したペットボトルを開発しました。また、お客様の分別作業が容易になるよう、1999年に本みりんや料理用清酒に「はずせるキャップ」を、2011年に松竹梅「天」にパウチパックを採用するなど、リサイクルの推進にも努めています。

●「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に完全準拠したペットボトル



●はずせるキャップ

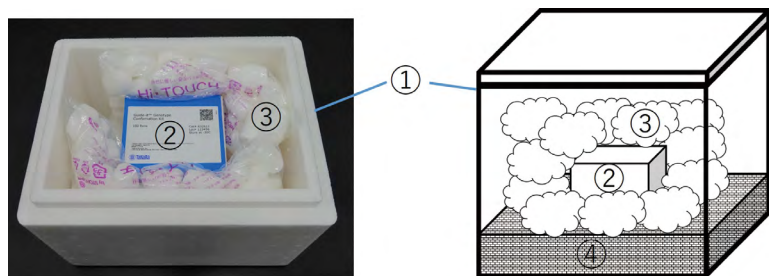


●パウチパックを採用した松竹梅「天」

キャップとも全てのプラスチックなので分別の必要がなく丸めて簡単にリサイクルに出すことができます。



タカラバイオでは、2023年7月から研究用試薬の輸送用保冷箱を使用済み発泡スチロールや廃家電のポリスチレンから再生した樹脂を100%使用した「再生発泡スチロール」製に変更することで、年間約10トンの発泡スチロールをリサイクル素材に切り替えます。



①保冷箱(再生発泡スチロールに切り替え) ②製品紙箱 ③緩衝材 ④冷却材

リフューズ 焼酎のはかり売りの展開

宝酒造独自の活動として、焼酎のはかり売りを展開しています。

焼酎のはかり売りでは、当社の工場で1ℓや200ℓの専用タンクに焼酎を充填し販売店に直送します。お客様は家庭にあるPETボトルなどの空容器を販売店に持参し、専用タンクから必要な分だけ容器に詰めて購入します。

「はかり売り」は、資源の節約や廃棄物の削減を実現するために人手を使う販売手法であり、消費者、販売店、メーカーの信頼関係をベースにお互いが協働することで成り立っています。

1998年の開始以来2023年3月までに、2.7ℓペットボトル換算で約1018万本を節約することができました。



● フードロス削減

飼料化設備

2005年9月、黒壁蔵に「焼酎粕飼料化設備」を導入しました。従来、焼酎かすはセメント原料として再利用していましたが、この設備を導入することで、芋や麦の焼酎かすに含まれる有効成分を分離・濃縮・乾燥して配合飼料原料として再利用するほか、微量の残留アルコールを回収し、施設内のボイラー燃料として活用するなど有機廃棄物の再資源化を実現しています。近年、本格焼酎の需要拡大に比例し、多くの焼酎かすが発生しています。黒壁蔵ではこれらを生家畜飼料の原料に再生することで「ゼロエミッション化」を推進しています。



酒粕・みりん粕のアップサイクル促進

宝酒造では、グループ会社のタカラ物産を通じて、清酒およびみりんの製造工程において発生する副産物である「酒粕」「みりん粕」のほぼ全量を廃棄せず利用しています。

具体的には、家庭用としての販売に加え、漬物や甘酒の原料、飼料などです。今後も持続可能な社会の実現のため、サーキュラーエコノミーを推進してまいります。



フードロス削減への取り組み

宝酒造には、希少な国産果実を原料に使った商品があります。

果実には果汁以外にもおいしく使える部分がありますが、その多くは果汁を搾った後に使われずに捨てられてしまいます。果皮などの未利用部位からおいしさを取り出す技術を開発し、国産果実の利用率を向上させることで、フードロス削減に取り組んでいます。

国産果実をムダなく使って、すっきりとした果実感で甘くない、タカラcan チューハイ「すみか」を2021年9月に発売しました。



おいしくて、ちょっとエシカル “国産果実”使用



※写真はイメージです。

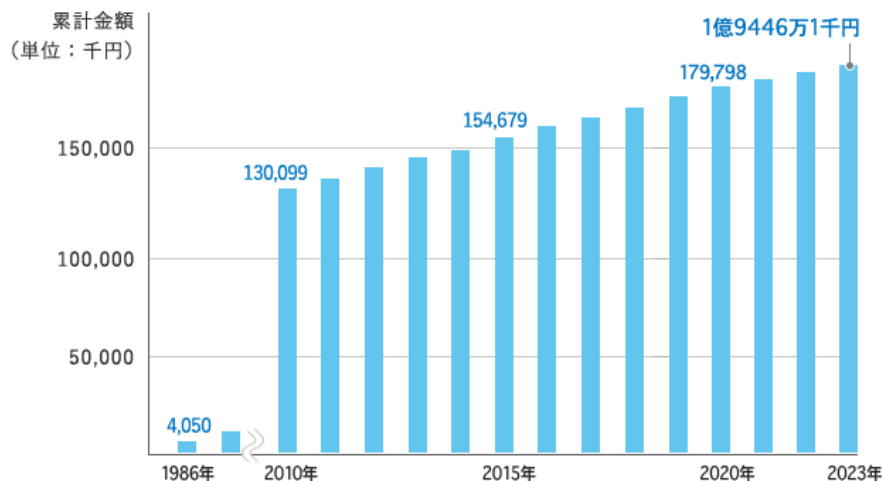
日本のおいしい果実にこだわった、国産果実を使用しています。また果皮や種など、果汁を搾った後に捨てられてしまう部分もムダなく活用することで、フードロス削減を応援！
缶には環境に配慮したバイオマスインキ※を使用し、「すみか」は“ちょっとエシカル”なチューハイになりました。

※バイオマスインキ…綿、パルプなどの生物由来の資源(バイオマス)から成分を抽出して製造したインキです。一般社団法人 日本有機資源協会がバイオマスの含有量だけでなく、環境製品としての安全・安心性も審査によってバイオマスマーク認定を行っています。

●タカラ・ハーモニストファンド

宝ホールディングスは、1985年に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林・草原や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われ、助成金贈呈式も開催しています。今後も日本の自然環境を守り育てる活動や研究への助成を通じて、生物多様性および豊かな自然環境の保全を推進していきます。

タカラ・ハーモニストファンド助成実績



● 助成実績と助成先一例

38年間
のべ411件



北海道	2006年	キウシト湿原の保全・再生事業
岩手県	1994年	二戸市における名木・巨木調査に関する報告書
東京都	2011年	小笠原の固有トンボ類再生、保全のための活動
茨城県	2003年	田んぼの生き物保護活動と教育活動
石川県	1990年	石川県の樹木分布の研究
大阪府	2012年	タコの生態や歴史・人との関わりから大阪湾を知る
京都府	2011年	鹿背山の里地里山を守り育てる活動
岡山県	1987年	カブトガニの保護調査
徳島県	2000年	吉野川河口干潟の保護活動
大分県	2004年	ベッコウトンボの幼虫飼養・増殖の活動
沖縄県	2021年	沖縄県における絶滅危惧種ジュゴンの生息確認

2023年度は、「繁殖期におけるコシアカツバメの減少要因を探る」を行う苗川博史さんのほか、全10団体・個人を助成。38年間の助成先はのべ411件、助成金累計金額は1億9446万1千円となりました。



助成金贈呈式の様子



コシアカツバメ

● 2023年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

	助成先・代表者名	地域	テーマ
活動の部	あさひかわサケの会	北海道	石狩川の環境保全と生態系の回復を通して、石狩川上流部での野生サケ資源の回復事業
	クリハラリス情報ネット	神奈川県	外来種クリハラリスの分布拡大を防ぎ、里山のムササビを護ろう
	NPO 法人 森林楽校・森んこ	福井県	里山林の再生事業
	ダイトウコノハズク保全研究グループ	沖縄県	島民と共に自然を知り、島の自然を未来に残したい！「島まるごと館」の再整備と固有亜種ダイトウコノハズクの保全活動
研究の部	植村 洋亮	北海道	湧水環境は地域的な種多様性を高めるか？ 溪流生態系における実証研究
	苗川 博史	神奈川県	繁殖期におけるコシアカツバメ (Hirundo daurica) の減少要因を探る
	山本 悠奨	滋賀県	身近な広葉樹ケヤキにおける虫こぶが生み出す生物多様性の解明
	藤田 宗也	滋賀県	大戸川の詳細な魚類相調査に基づいた復元目標の設定
	宇高 寛子	京都府	大型在来種ヤマナメクジが森林の多様性に果たす役割の解明
	上田 昇平	大阪府	フクロウの繁殖状況と遺伝的多様性に関する研究

● 田んぼの学校

2004年より、小学生とその家族を対象に、自然環境や生物多様性を守ることの大切さや自然の恵みのありがたさを伝えることを目的とした環境教育&食育を実施しています。5月から9月までの約半年間に京都府南丹市の田んぼでの稲作体験や自然観察などの授業を3回にわたって

行ってきました。2022年からWeb上で「田んぼの学校オンライン」を開校し、より多くの方にご参加いただける仕組みを提供しています。

田んぼの学校は全3回。お米ができるまでを体験します。

参加者は自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米ができるまでを体験するほか、田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物も観察します。

春 田植え編

田植え体験



苗を手に田植えスタート

自然観察



自然観察講師の話に興味津々

夏 草取り編

草取り体験



根が張った草を手で抜くのは一苦労

自然観察



昆虫をつかまえてみんなで観察

秋 収穫編

稲刈り体験



初めての稲刈りは難しい

自然観察



捕まえたトンボをよ〜く観察！

宝酒造

「田んぼの学校オンライン」

2022年からは、より多くの方に参加していただけるよう宝酒造「田んぼの学校オンライン」をweb上で開催しています。苗づくりから収穫までの稲が育つ様子の動画や田んぼ周辺の自然観察ができる動画を配信しています。さらに、「おうちで田んぼ体験キット」を使った自宅でのお米作りの様子を投稿できる「みんなの栽培日記ページ」を開設しています。



webサイトは
こちらから



●エコの学校

宝酒造「エコの学校」は、小学3～6年生とご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から開催しています。これまで、京都市、神戸市、東京都江東区、名古屋市などの環境学習施設を中心に実施してきました。

2023年は、京都市と東京都江東区で開催しました。



1 時 限 目

1時限目は、映像を使った「ごみって何?」「家庭でごみを減らす方法」の授業です。ガラスびんやPETボトルなどの3R(スリーアール)について学びます。



2 時 限 目

2時限目は、びんからできるガラスカレット(ガラス片)を使ったリサイクル体験です。色とりどりのガラス片を並べて貼り付け、オリジナルのカレットアートを作ります。



3. 環境データ

環境マネジメント

●環境コンプライアンス

項目	対象範囲	単位	2023年3月期
環境法令違反による罰則	宝酒造	件	なし
環境法令違反による罰金	宝酒造	円	なし

気候変動

●GHG排出量(※Scope1で算出したGHG: CO₂、CH₄、N₂O、HFCs)

項目	対象範囲	単位	2022年3月期	2023年3月期
Scope1+Scope2	・宝ホールディングス ・宝酒造	t-CO ₂ e	104,859	90,158
内訳: Scope1		t-CO ₂ e	84,081	68,999
内訳: Scope2		t-CO ₂ e	20,778	21,159
Scope3 総計		t-CO ₂ e	823,018	793,949
カテゴリー1		t-CO ₂ e	625,373	605,552
カテゴリー2		t-CO ₂ e	6,221	8,864
カテゴリー3		t-CO ₂ e	18,680	16,226
カテゴリー4		t-CO ₂ e	112,830	105,474
カテゴリー5		t-CO ₂ e	947	862
カテゴリー6		t-CO ₂ e	235	230
カテゴリー7		t-CO ₂ e	586	574
カテゴリー8		t-CO ₂ e	算定対象外	算定対象外
カテゴリー9		t-CO ₂ e	5,300	5,092
カテゴリー10		t-CO ₂ e	算定対象外	算定対象外
カテゴリー11		t-CO ₂ e	算定対象外	算定対象外
カテゴリー12		t-CO ₂ e	52,579	50,813
カテゴリー13		t-CO ₂ e	267	262
カテゴリー14		t-CO ₂ e	算定対象外	算定対象外
カテゴリー15		t-CO ₂ e	算定対象外	算定対象外

●生産工程におけるCO₂排出量

項目	対象範囲	単位	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
生産工程におけるCO ₂ 排出量 (生産拠点のみで算出)	・宝酒造 ・宝酒造インターナショナル ・タカラバイオ	t-CO ₂	97,500	94,961	95,778	93,645	84,905
		t-CO ₂	6,191	4,572	3,469	4,868	3,774
		t-CO ₂	13,180	10,859	12,833	14,252	15,692
	計	t-CO ₂	116,871	110,392	112,080	112,765	104,371

●輸送工程におけるCO₂排出量

項目	対象範囲	単位	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
輸送工程におけるCO ₂ 排出量	・宝酒造	t-CO ₂	16,011	16,389	15,866	15,632	14,398

●エネルギー使用量

項目	対象範囲	単位	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
エネルギー使用量	宝酒造	TJ	1,562	1,555	1,501	1,467

※ 電力換算係数は国際エネルギー機関の 3.6MJ/kWh を使用

資源利用

● INPUT/OUTPUT

項目	対象範囲	単位	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
原材料使用量		千t	204	201	185	183
	原料	宝酒造 千t	182	184	169	168
	容器包装資材	宝酒造 千t	21	17	16	15
生産量	宝酒造	千kl	515	526	522	494

※ 省エネ法報告生産数量

廃棄物管理

● 廃棄物排出

項目	対象範囲	単位	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
廃棄物	宝酒造	t	4,975	4,974	5,338	4,662
	再資源化量	宝酒造 t	4,859	4,886	5,287	4,616
	最終処分量	宝酒造 t	116	88	51	46
有害廃棄物	宝酒造	t	2	0.2	2.4	5.1

※ 特別管理産業廃棄物（廃油・廃酸・廃アルカリ・PCB）

● 大気排出

項目	対象範囲	単位	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
NOx	宝酒造	t-NOx	104	100	94	80
SOx	宝酒造	t-SOx	118	96	97	90
VOC	宝酒造	kg	0	0	0	0

水セキュリティ

● 適正な水使用

項目	対象範囲	単位	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
水資源投入量	宝酒造	千m ³	5,903	5,810	5,606	5,626
	上水	宝酒造 千m ³	275	251	219	206
	工業用水	宝酒造 千m ³	1,048	1,081	1,089	1,129
	地下水	宝酒造 千m ³	4,580	4,478	4,298	4,291
排水量	宝酒造	千m ³	5,098	4,927	5,147	5,565
	下水道	宝酒造 千m ³	914	853	883	824
	河川	宝酒造 千m ³	2,963	2,769	2,866	3,462
	港湾	宝酒造 千m ³	1,221	1,305	1,398	1,279
排水水質	COD	宝酒造 t-COD	64	56	43	45
	窒素	宝酒造 t-N	8	9	12	12
	リン	宝酒造 t-P	3	2	3	3
生産工程での用水使用量	宝酒造、Takara Sake USA Inc. 宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程（大連）有限公司、DSS Takara Bio Pvt. Ltd.、Takara Bio USA, Inc. ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む	千m ³	7,295	6,822	6,465	6,484

※ 法令による測定義務5工場が対象

生物多様性

● 生態系・生物多様性の保全（1985～2023年現在）

項目	対象範囲	単位	累計
生態系や生物多様性を守る活動や研究への助成件数	宝ホールディングス	件	411
助成金額	宝ホールディングス	万円	19,446

4. 宝の環境活動のあゆみ

<p>1925</p> <p>1925 (大正14年)</p> <p>寶酒造株式会社創立</p>	<p>1980</p> <p>1984 (昭和59年)</p> <p>「カムバック・サーモン・キャンペーン」開始</p> <p>1985 (昭和60年)</p> <p>「はたちまでストップ」企業広告を実施</p> <p>1985 (昭和60年)</p> <p>公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立</p>	<p>1990</p> <p>1985 (昭和60年)</p> <p>「Say No」キャンペーン実施</p> <p>1985 (昭和60年)</p> <p>適正飲酒啓発パンフレット「Say No 読本」を発行</p> <p>1989 (平成元年)</p> <p>スポーツドリンク「PAD」に、日本で初めてステイオンタブ(SOT)を採用</p> <p>1991 (平成3年)</p> <p>第1回「宝フリンカンウォーキング」を開催</p> <p>1994 (平成6年)</p> <p>北海道で宝焼酎「純」、純レジエンドのリターナブルボトル化開始</p> <p>1994 (平成6年)</p> <p>四万十川の清流を守るウキャンペン開始</p> <p>1995 (平成7年)</p> <p>阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣</p> <p>1995 (平成7年)</p> <p>未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始</p> <p>1995 (平成7年)</p> <p>商品に点字で「おさげ」表示を開始</p> <p>1998 (平成10年)</p> <p>焼酎のほかり売り開始</p> <p>1998 (平成10年)</p> <p>環境報告書「緑字決算報告書」初刊発行</p> <p>1999 (平成11年)</p> <p>タカラ本みりん「醇良」にはずせるキャンを採用</p>	<p>2000</p> <p>2000 (平成12年)</p> <p>地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞</p> <p>2002 (平成14年)</p> <p>ベロタフシーへの協賛開始</p> <p>2003 (平成15年)</p> <p>阿武隈川きらきらキャンペーンに協賛</p> <p>2004 (平成16年)</p> <p>環境教育教材「リサイクルロード」発刊</p> <p>2004 (平成16年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校」開始</p> <p>2004 (平成16年)</p> <p>妊産婦飲酒の注意表示実施</p> <p>2004 (平成16年)</p> <p>17事業場でISO14001を統合</p> <p>2005 (平成17年)</p> <p>CSR報告書「緑字企業報告書」初刊発行</p> <p>2006 (平成18年)</p> <p>お客様相談室のウェブサイトを開設</p> <p>2008 (平成20年)</p> <p>「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」開催</p> <p>2009 (平成21年)</p> <p>「お酒おつきあい読本」発行</p> <p>2011 (平成23年)</p> <p>東日本大震災で被災地給水を支援</p> <p>2011 (平成23年)</p> <p>松竹梅「天」にパウチパックを採用</p> <p>2012 (平成24年)</p> <p>宝酒造「エゴ」の学校「開始</p> <p>2014 (平成26年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校」が「青少年の体験活動推進企業表彰」で審査委員会特別賞を受賞</p> <p>2014 (平成26年)</p> <p>白河工場跡地を白河市へ寄付</p> <p>2016 (平成28年)</p> <p>松竹梅「京のあまくち」に日本で初めて使用後の解体が容易な新紙パック容器「EPPACKオルカット」を採用</p> <p>2017 (平成29年)</p> <p>松竹梅「天」エゴパウチが容器包装簡素化大賞2017の特別賞を受賞</p> <p>2017 (平成29年)</p> <p>「2017 JPC (ジャパンパッケージングコンペティション)」を受賞</p> <p>2018 (平成30年)</p> <p>「エゴマークアワード2018」で宝酒造が「最優秀賞」を受賞</p> <p>2019 (令和元年)</p> <p>森林認証紙の採用 (PEFC 認証等)</p> <p>2020 (令和2年)</p> <p>宝ホールディングス歴史記念館CO2フリーエネルギー化</p> <p>2021 (令和3年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校オンライン」をweb上で開始</p> <p>2023 (令和5年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校」が「環境活動推進企業表彰」で審査委員会特別賞を受賞</p>	<p>2020</p> <p>2017 (平成29年)</p> <p>松竹梅「天」エゴパウチが容器包装簡素化大賞2017の特別賞を受賞</p> <p>2017 (平成29年)</p> <p>「2017 JPC (ジャパンパッケージングコンペティション)」を受賞</p> <p>2018 (平成30年)</p> <p>「エゴマークアワード2018」で宝酒造が「最優秀賞」を受賞</p> <p>2019 (令和元年)</p> <p>森林認証紙の採用 (PEFC 認証等)</p> <p>2020 (令和2年)</p> <p>宝ホールディングス歴史記念館CO2フリーエネルギー化</p> <p>2021 (令和3年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校オンライン」をweb上で開始</p> <p>2023 (令和5年)</p> <p>宝酒造「田んぼの学校」が「環境活動推進企業表彰」で審査委員会特別賞を受賞</p>
---	--	--	---	---

